

▶16日 水曜

ルカ

12:49 わたしが来たのは、地に火を投げ込むためです。だから、その火が燃えていたらと、どんなに願っていることでしょう。

12:50 しかし、わたしには受けるバプテスマがあります。それが成し遂げられるまでは、どんなに苦しむことでしょう。

12:51 あなたがたは、地に平和を与えるためにわたしが来たと思っているのですか。そうではありません。あなたがたに言いますが、むしろ、分裂です。

12:52 今から、一家五人は、三人がふたりに、ふたりが三人に対抗して分かれるようになります。

12:53 父は息子に、息子は父に対抗し、母は娘に、娘は母に対抗し、しゅうとめは嫁に、嫁はしゅうとめに対抗して分かれるようになります。」

12:54 群衆にもこう言われた。「あなたがたは、西に雲が起るのを見るときに、『にわか雨が来るぞ。』と言い、事実そのとおりになります。

12:55 また南風が吹きだすと、『暑い日になるぞ。』と言い、事実そのとおりになります。

12:56 偽善者たち。あなたがたは地や空の現象を見分けることを知りながら、どうして今のこの時代を見分けることができないのですか。

12:57 また、なぜ自分から進んで、何が正しいかを判断しないのですか。

12:58 あなたを告訴する者といっしょに役人の前に行くときは、途中でも、熱心に彼と和解するよう努めなさい。そうでないと、その



人はあなたを裁判官のもとにひっぱって行きます。裁判官は執行人に引き渡し、執行人は牢に投げ込んでしまいます。

12:59 あなたに言います。最後の一レプタを支払うまでは、そこから決して出られないのです。」

この世は創造の神を無視するような価値観がまかり通っています。ですからそのままの状態です。平穩であったとしても、それは全体が滅びに向かっているに過ぎません。しかも平穩に見えるのも一時であって、神を無視する価値観は人間中心ですから死への解決がなく、また人間はあくまでも自己中心ですから平穩は争いに変わってしまうのです。

つまり見かけの平穩は脆いものなのであって、イエス様はそのような平穩のために来られたのではありません。すなわち「平和を与えるために来た」のではないのです。むしろ神を無視する価値観の中では、神を信じて従う者がうとましい存在でしょうし、死の解決をいただいた者は理解不可能に見えるかもしれませんし、自己中心でない者は煙たがられるかもしれません。ですからイエス様は「むしろ分裂です。」と言われたのです。

私たちはそのことを恐れて、日和見的であって、本当に価値のある生き方を失ってしまうでしょう。今は福音が伝えられている恵のときですから「時代を見分ける」ときであり、また主が働いておられるときですから、「和解」のときです。

今は大丈夫…と脆い平穩に身を隠すのではなく、本当の価値、永遠の平和のためにリスクを恐れないうでいきましょう。全能の主権者であられる神は、そのような者のそばにいて助けてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

